Sarakurayama

皿倉山
リニューアル計画

絶景と自然の魅力づくりに着手

平成２８年５月
北九州市

目　　次

Ⅰ．皿倉山の歴史と特色 …… 1
1．皿倉山の歴史 …… 1
2．帆柱公園・帆柱自然公園・帆柱森林植物園の経緯 …… 2
3．官営八幡製鐵所と皿倉山 …… 3

Ⅱ．皿倉山の現状 …… 4
1．施設や見所 …… 4
2．利用者数 …… 10
3．利用者アンケートの結果（観光客） …… 10
4．ビジターセンターの利用者の推移 …… 12
5．利用者アンケートの結果（登山客） …… 12
6．皿倉山をとりまく課題 …… 14

Ⅲ．テーマとコンセプト …… 15
1．テーマ …… 15
2．コンセプト …… 16
3．整備エリア …… 17

Ⅳ．主な事業の内容 …… 18
山頂付近エリア　事業１．天空ドームの改修 …… 18
事業２．展望デッキの設置 …… 18
事業３．絶景の遊び場の整備 …… 19
帆柱平中央エリア　事業４．皿倉平中央広場の整備 …… 20
事業５．アスレチックのリニューアル …… 20
事業６．皿倉山ならではの体験 …… 21
帆柱森林植物園・回遊エリア　事業７．帆柱森林植物園の再整備とサクラ・モミジの名所づくり 22
事業８．ウォーキングコースの拡充 …… 24
帆柱公園エリア　事業９．立体駐車場の設置 …… 25
アクセス対策　事業 10．サインの充実 …… 25

Ⅴ．参考資料 1～4 …… 26

Ⅰ.皿倉山の歴史と特色

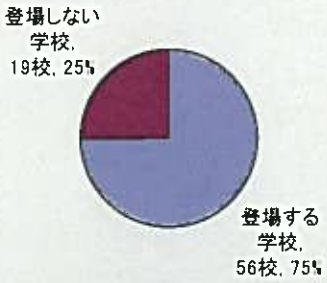
1．皿倉山の歴史

皿倉山について

皿倉山（標高 622m）は、市内の広いエリアから姿を見ることができ、その美しい稜線の姿は、市民の誇りとなっています。八幡西区、八幡東区では、多くの学校で校歌の歌詞に皿倉山や帆柱山の名が使用されるなど市民にとって本市のシンボルとなる山となっています。

皿倉山は、帆柱山や花尾山、権現山とともに“帆柱連山”を構成し、北九州国定公園の一部にもなっています。市街地の近くにも関わらず、その自然はとても豊かで、春や秋には百種以上の渡り鳥を見ることが出来ます。

皿倉山山頂からの景色は、北九州市の市街地を一望できる絶景であり、特に夜景は、“100 億ドルの夜景”と呼ばれ、「新日本三大夜景」のひとつにも選ばれています。



校歌に皿倉山等の山名が登場する学校の割合（八幡西区、八幡東区）

皿倉山の名前の由来

皿倉山の名前の由来は、神功皇后が発した言葉に由来すると伝えられています。この山に登った神功皇后が下山するときには日が暮れていて「更に暮れたり」と言ったことから、この一帯が更暮山または更暗山と呼ばれ、それが皿倉山に転じたと言われています。

皿倉山周辺位置図

皿倉山の略歴

皿倉山を含む帆柱連山は、“帆柱自然公園”として昭和29年から整備が進められ、ケーブルカーの設置、展望台の整備などが行われました。その後、昭和47年に“北九州国定公園”に指定されたほか、昭和58年からは、市政20周年記念事業として“帆柱森林植物園”の整備が進められました。

- 江戸期　黒田藩が植樹政策を実施。（後の皇后杉林を形成）
- 江戸中期　「郡内随一の高山なり」と『筑前国続風土記』（貝原益軒 編）に記載
- 昭和12年　皿倉表登山道（市道）が完成
- 昭和29年　“帆柱自然公園”の整備計画が八幡市議会で議決される
- 昭和32年　“帆柱ケーブル”開業
- 昭和33年　山頂に展望台を設置
- 昭和38年　5市が合併し北九州市が発足
- 昭和38年　帆柱スカイラインリフトが開業
- 昭和47年　“北九州国定公園”指定
- 昭和48年　“帆柱自然公園愛護会”設立
- 昭和58年　“帆柱森林植物園”の整備着手
- 平成13年　ケーブルカーの車両更新が初めて行われる
- 平成19年　帆柱スカイラインリフトに変わり“皿倉山スロープカー”が開業　山頂の展望台を改修
- 平成27年　“帆柱ケーブル”から“皿倉山ケーブルカー”に名称を変更

（資料：八幡市「市勢要覧」（昭和32年）、八幡市「八幡市史」（昭和34年）、皿倉山ビジターセンターHP）

2．帆柱公園・帆柱自然公園・帆柱森林植物園の経緯

帆柱公園及び帆柱自然公園の経緯

“帆柱公園”は、日比谷公園（東京都）や大濠公園（福岡市）をはじめ、本市の清滝公園などの設計を行い、六甲山の植樹計画に携わった、日本の「公園の父」といわれる本多静六博士が、大正9年に旧5市の1つである八幡市の依頼を受け設計しました。

また、“帆柱自然公園”は、昭和29年に「勤労者並に家族の休養、慰安と青少年の育成、観光」を目的として、整備計画が八幡市の議会で議決されました。この整備計画の一環として、昭和32年に開業したのが“帆柱ケーブル（現 皿倉山ケーブルカー）”、昭和33年に設置されたのが展望施設を持つ山頂広場です。

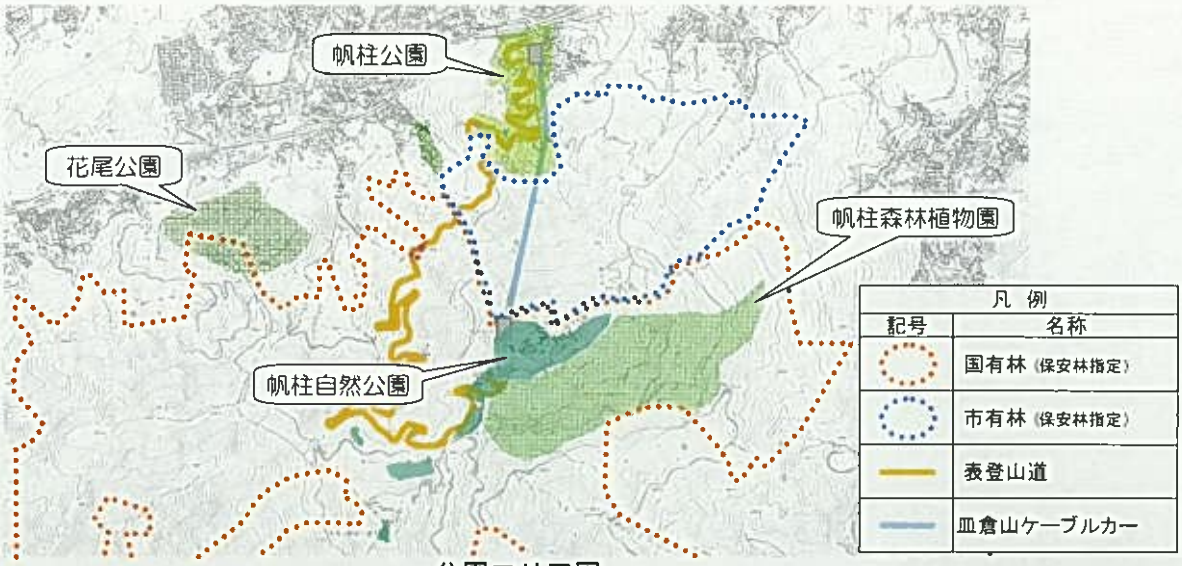
その後、帆柱森林植物園の整備や帆柱スカイラインリフトの開業によるアクセス向上などを経て、現在の環境を形成してきました。

昭和48年には、“帆柱自然公園愛護会”が設立され、現在に至るまで、公園内の自然環境の保全と保護活動、環境学習活動、各種イベントの開催などを行っています。

皿倉山ケーブルカー

帆柱自然公園

（資料：八幡市「市勢要覧」（昭和32年）、皿倉山ビジターセンターHP）



公園エリア図

帆柱森林植物園の経緯

帆柱森林植物園の設置に向けた動きは、市民からの「家族づれで楽しめる大型公園を」との要望を受け、“北九州市新・新中期計画（計画期間：昭和 55～59 年）の中に、皿倉山周辺への公園設置の計画を掲げたことから始まりました。

昭和 57 年には、学識経験者及び関係団体で構成する「帆柱山森林植物園委員会」により基本計画が策定され、この中で対象地域や整備方針、整備内容、管理運営方法などが定められました。

その翌年、昭和 58 年に市政 20 周年記念事業として整備に着手し、段階的に現在の帆柱森林植物園を形成してきました。

（資料：北九州市「北九州市帆柱山森林植物園基本計画」（昭和 57 年）
皿倉山ビジターセンターHP）

帆柱森林植物園

フユザクラ

3.官営八幡製鐵所と皿倉山

北九州市を一望できる皿倉山

皿倉山山頂は、明治以降の日本の近代化と 100 万都市を支えた、北九州市の市街地をパノラマで見渡すことが出来る絶好のビューポイントです。

平成 27 年に「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、北九州市内では、官営八幡製鐵所関連の 3 施設が構成資産となっています。このため、世界遺産の街を一望できる皿倉山の観光需要は、今後増加していくことが見込まれており、ハード・ソフト両面の受け入れ体制の整備が求められています。

また、帆柱森林植物園からは、皿倉山の南側に位置し、八幡製鐵所の工業用水池として建設された河内貯水池を眼下に望むことができます。豊かな緑に囲まれた河内貯水池は、皿倉山北側の工業地帯とは対照的な自然景観を形成しています。

（資料：一般財団法人産業遺産国民会議 HP）

市街地の眺め

官営八幡製鐵所旧本事務所

河内貯水池の風景

河内貯水池の堰堤

Ⅱ.皿倉山の現状

1．施設や見所

皿倉山には移動手段のケーブルカーや眺望を楽しむ展望台、宿泊できるキャンプ場、自然を満喫できる森林植物園など様々な施設があります。特にケーブルカーや展望台は人気があり、家族やグループでの来訪者が多くみられます。

＜ 施設位置図 ＞

■ ケーブルカーとスロープカー

ケーブルカーは自然と夜景が楽しめる皿倉山山頂への交通手段として昭和３２年に開業し、山麓駅から山上駅まで全長 1,100m標高差 440mの九州最長のケーブルカーとして、現在でも年間約２０万人が利用しています。

平成１３年にスイス製の車両に更新され、全面ガラス張りの車窓からは刻々と変わる見事な景観を楽しむことができます。

以前の車両

現在の車両

昭和 39 年に山上駅から皿倉山頂までを繋ぐスカイラインリフト（チェアリフト）が開業され、平成 18 年までの 42 年間、利用者を運んできました。

平成 19 年にスロープカー（40 人乗り）として生まれ変わり、ケーブルカーの車両と同じく、こちらも全面ガラス張りであり、更なるパノラマ景観を楽しめます。

スカイラインリフト

スロープカー

ＪＲ八幡駅まで無料シャトルバス（土日、祝日のみ）が運行していて、公共機関でのアクセスも可能です。

更なる利用者の拡大を図るため、PR や案内など幅広い広報活動や、分かりやすいアクセスの向上が望まれます。また、大型連休や紅葉などの観光シーズンは多くの利用者が来ることで駐車台数が不足しており、駐車場の整備が必要となっています。

■昭和 32 年：ケーブルカー営業開始
■昭和 39 年：スカイラインリフト開業
■平成 13 年：ケーブルカーの車両更新
■平成 19 年：スロープカー開業
■平成 26 年度利用者数：約 20 万人

■ 展望台

山頂の展望台からの眺望は北九州市の八幡西区から門司区、下関市まで見渡すことができ、夜景は“100 億ドルの夜景”と呼ばれ、「日本新三大夜景」のひとつにも選定されています。展望台のレストランはガラス張りとなっているため、絶景を眺めながら食事を楽しむことができます。

皿倉山展望台

展望台レンストラン

また、現在の山頂広場においては、眺望を楽しみなら休憩する場所がないため、絶景を活かした休憩のできる施設の整備が望まれます。

展望台広場

展望台からの夜景

■平成 15 年：日本新三大夜景に認定
■平成 19 年：展望台の改修

■ 天空ドーム

展望台から東へ 150mの場所にある「天空ドーム」という見晴らし台には平成 27 年 4 月に、「恋人の聖地サテライト」に認定された「皿倉山山頂／皿倉山の夜景」の銘板とモニュメントがあり、恋人たちに人気のスポットとなっています。中央のモニュメントは御影石の上にステンレス製のハートが載ったデザインで、ハートの向こうには、「愛」をかけて「藍の島」が眺望できます。周辺の柵には、ハート型のオブジェがあり、南京錠をロックすると恋愛成就できる?! とされています。

天空ドーム

ライトアップ

モニュメント

土日・祝日の夜は天空ドームがライトアップされ、さらにロマンチックになります。

一方で、建物はデザインが古く老朽化が目立っており、「恋人の聖地」に相応しい、雰囲気作りや設備の改修が求められています。

■恋人の聖地サテライト認定：平成 27 年 4 月

■ ビジターセンター

平成 18 年 3 月に国民宿舎が閉鎖後、「皿倉山ビジターセンター」として開設ました。登山者の拠り所や帆柱自然公園の情報の発信場所として利用されています。

建物は開設から約 50 年が経過しており施設の老朽化への対応が必要です。また、皿倉山ならではの自然体験や催し等の充実が望まれます。

ビジターセンター

■供用開始：平成 18 年 4 月

北側広場

北側広場

クライミング遊具

野外音楽堂

ビジターセンター内部

木工室

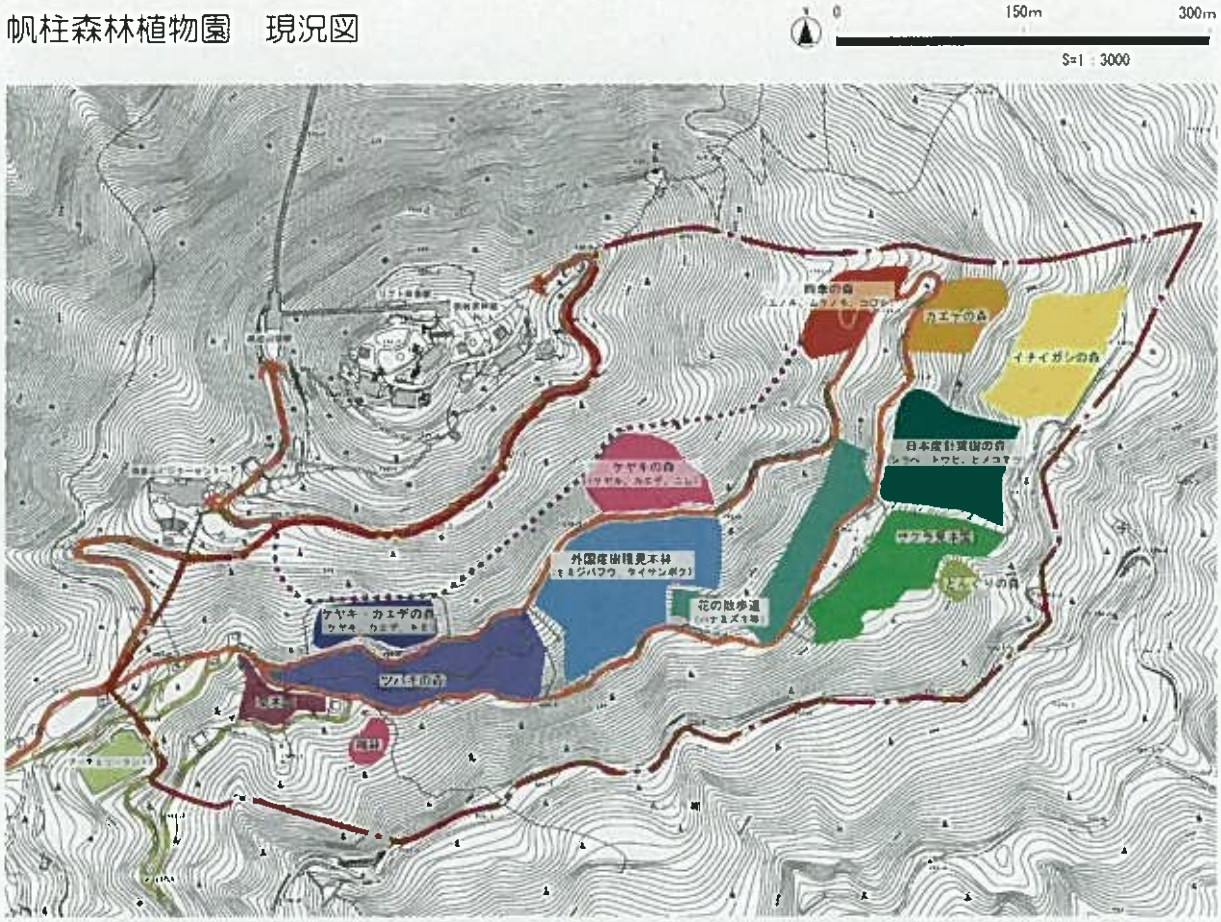
厨房

講習室

■　帆柱森林植物園

昭和６１年に北九州市の木「イチイガシ」の苗木を植栽。「サクラ広場」「クヌギの森」「カエデの森」「ケヤキの森」「ツバキの森」「四季の森」などテーマ性のある植樹しています。また、隣接して公益財団 八幡薬剤師協会が運営する「薬用植物園」が存在します。

帆柱森林植物園　現況図



年間に２度咲く「フユザクラ」は、人気箇所のひとつであり、開花期は多くの人が訪れます。森林植物園は春の新緑とともにいろんな種類の開花を楽しめ、周辺の木々には小鳥や昆虫が飛び交っています。

植栽から 30 年が過ぎ、植樹した樹木と自然に発芽した樹木などが成長したことで込みすぎていることや、休憩施設などの老朽化などで全体的に暗い印象もあります。また、薬用植物園との連携して、案内標識などを充実し、回遊性を高める取り組みが望まれています。

■植栽開始：昭和 61 年

帆柱森林植物園入口

サクラ広場

薬用植物園

■ 皇后杉

皿倉平から西に 450m、権現山の外周遠路沿いに皇后杉林があります。黒田藩の領地になった頃(1600)から植林を進めたことから、樹齢は２５０年前後の立派な大樹が多く見られます。その中でも、「皇后杉」に至っては、約４００年と推定されおり神聖な雰囲気が漂います。

位置的な問題もあり皇后杉の存在も知られていないため、PR 等の広報活動や、雰囲気を活かしたパワースポットとして整備や話題作りが必要です。

皇后杉

■皇后杉樹齢：推定 400 年

皇后杉近くの広場

皇后杉の森　休憩場所

■ キャンプ場

権現山内に青少年キャンプ場が存在し、年間 3000 人程度が利用しています。帆柱自然公園の素晴らしい環境の中で、次代を担う青少年が野外活動を通じて、心身ともたくましく鍛え、明るく想像力豊かな人間性の育成を目指すための社会教育施設です。

開設から年月が経過し、施設の老朽化が目立ち、利用者のニーズに合った魅力づくりが望まれています。

キャンプ場入口

営火場

■施設：テントサイト 29 区画（夏休み期間はテント常設）、
炊事場、営火場、水道、水洗トイレ、管理棟有り

■ アーチェリー場

皿倉平の皿倉林道の入口から 140m下った場所にボランティアで運営をしている「北九州フィールドアーチェリーランド」が存在します。土・日曜、祝祭日に営業しており、初心者でもインストラクターが教えてくれ、道具のレンタルもあるので気軽に利用することができます。

また、フィールドアーチェリー(自然の中で競技)ができる射場はあまりないため人気となっており、大会なども行われています。

アーチェリー場入口

■料金：一般利用者

＜ 練習場 ＞	700 円（3時間）
	1900 円（3時間以上）
＜フィールド＞	1200 円（1 コース）
	2400 円（ユニット）
＜レンタル＞	500 円（弓具）

練習場

フィールド

■ 冒険のもり（アスレチック）

ビジターセンターの向かい側の場所に、「冒険のもり」というアスレチック遊具施設があり、大自然の中で遊ぶことができます。

冒険心や探究心をくすぐり、大人も子供も幅広い年齢で楽しむことができる施設の再整備や利用を促進する取り組みが必要となっています。

冒険のもり入口

■遊具施設：遊具４基
（複合遊具２基、丸太山１基、登り棒１基）

複合遊具

複合遊具

丸太山

■ 帆柱公園

本多静六博士

皿倉表登山道の入口であり、ケーブルカー山麓駅がある場所として知られています。

本多静六博士によって設計された園内は自然環境に恵まれ、広葉樹林に覆われたなだらかな傾斜地であり、帆柱山系登山口としての遊歩道も整備されているため、市民散策の適地になっています。

野草や昆虫も多く生息しており、多様な学習や野外活動、レクリエーションなどの体験を通して、健全な青少年の育成を図る宿泊研修施設「福岡県立ふれあいの家」が存在します。その隣接する洞見台からの眺望は山頂とはまた違う魅力を楽しめます。

大型連休や紅葉時のシーズンには多数の来訪者により、山麓駅周辺の駐車場が満車になるため、駐車することができずに引き返す車両もあるため、駐車台数の拡大が求められています。また、展望施設や休憩施設などが老朽化により撤去され、雑然とした雰囲気になっている場所もあるため、整備が望まれています。

ケーブルカー山麓駅

■主な施設：ケーブルカー山麓駅、
駐車場
（114台・大型４台）
福岡県立ふれあいの家

サクラ並木

駐車場

2. 利用者数

皿倉山の観光客数は年間約 40 万人が訪れており、ケーブルカーや登山ブームによる利用者がいます。スロープカー開設時の平成 20 年度をピークに 2 年間減少した観光客も 23 年度からの 2 年間は増加となっていますが、26 年度は若干の減少となっています。

世界遺産を見下ろせる絶景や他の観光施設など、更なる魅力を高めることで国内外からの観光客の増加が予想され、それに対応できる施設が必要になります。

皿倉山、ケーブルカー利用者のグラフ

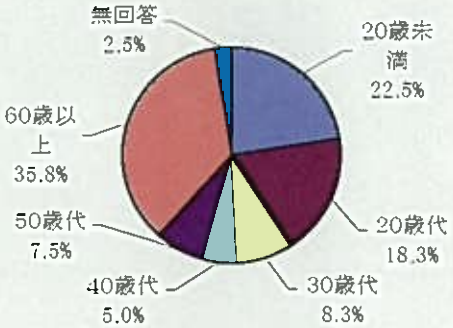
3. 利用者アンケートの結果（観光客）

一般利用者の意見や要望の声を聴くため平成 27 年 10～11 月にケーブルカー山麓駅において、アンケート調査を実施しました。集計の結果（有効回答 120 人）、市内外から観光目的で訪れている来訪者が多くいたため、観光客へのアンケートとしています。

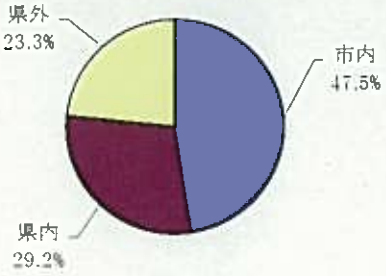
アンケート結果は以下のとおりです。

○　市内から訪れる人が 48%をしめており、主に家族、恋人、友人などの複数人で来訪しており、若年から年配までの幅広い年齢層の方が来ています。また、利用頻度としては「年に 1～2 回」「数年に 1 回程度」が過半数をしめています。

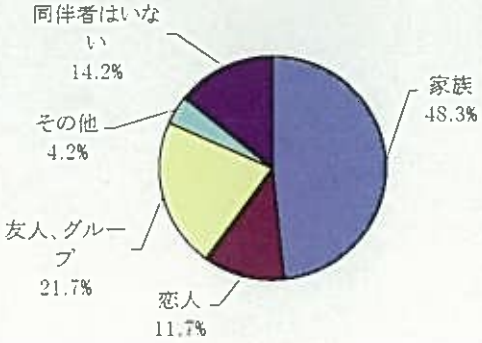
観光客の年齢層



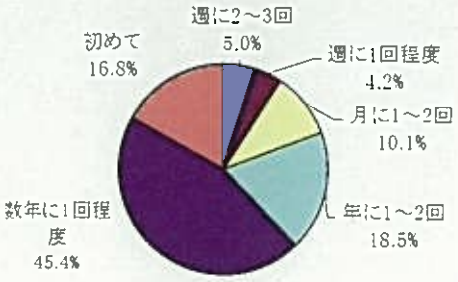
どこから来ました



同伴者とそのご関係

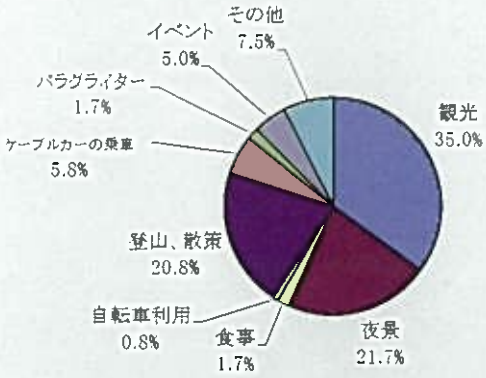


どのくらい利用しますか



○　皿倉山への来訪目的は、観光と夜景の眺望が半数以上を占めています。また皿倉山の魅力は「眺望」が最も多く、「緑豊かな自然」、「夜景」、「ケーブルカー乗車」の順となっています。

利用目的はなんですか



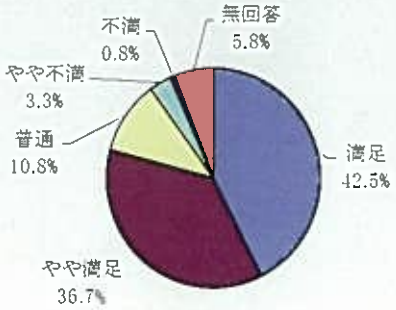
皿倉山の魅力はなんですか

○　あったらいいなと思う施設では、「遊具」や「ウォーキングコース」、「モミジやサクラの名所」など、家族連れのレクリエーションや健康志向の向けの施設の充実、また「きれいなトイレの充実」が最も多く、老朽化したトイレの再整備や管理の充実が望まれています。
　また、ビジターセンター設置分も「ウォーキングコース」や「トイレの充実」であり、同等の結果が得られました。

あったらいいなと思う施設は何ですか

○　皿倉山の来訪者の80%が満足しており、「皿倉山に行けば楽しい」という、広報活動やＰＲなど情報発信を幅広く且つ効率的に行い、皿倉山を知ってもらうことで、観光客や家族連れの集客力アップにつながります。

皿倉山には満足していますか



その他の要望意見

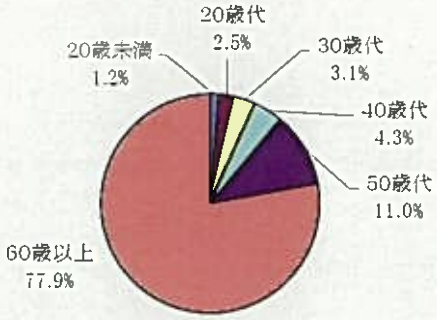
- 小さな子供が遊ぶ場所やトイレが少ない。
- 多国語の案内板や、樹名板をつけてほしい。
- 美しい景観や自然を維持してほしい。
- 皿倉山の広報を上手にすべき。
- 連休や紅葉の時期などに備え、駐車場の数を増やしてほしい。

4. ビジターセンターの利用者の推移

平成 18 年に開業した皿倉山ビジターセンターは、年間約 2 万 3 千人が訪れており、主に登山者が多いです。平成 20 年度をピークに減少していた来館者も、25 年度からは登山ブームと健康づくりによる利用者が増えたことで上昇傾向となっています。

ビジターセンター来館者の推移

来館者の年齢層



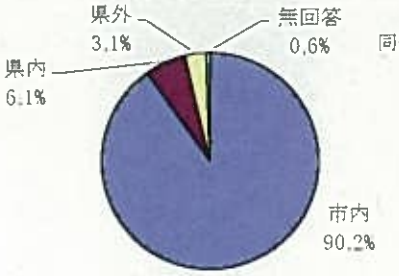
5. 利用者アンケートの結果（登山客）

一般利用者の意見や要望の声を聴くため平成 27 年 10～11 月にビジターセンターにおいて、アンケート調査を実施しました。集計の結果（有効回答 162 人）、市内から登山目的で訪れている来訪者が多くいたため、登山者へのアンケートとしています。

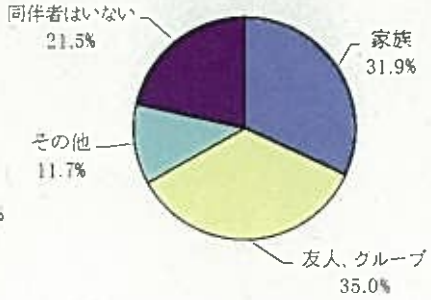
アンケート結果は以下のとおりです。

○　市内から訪れる人が 90%をしめており、主に家族や友人でのグループでの来館が多く、単独での利用も 20%を占めています。また、利用頻度としては幅広く、「週単位」、「月単位」、「年単位」と同等の割合を占めている一方で、初めての来館が 1%を切っておりビジターセンターの周知のため、PR 等の広報活動が必要です。

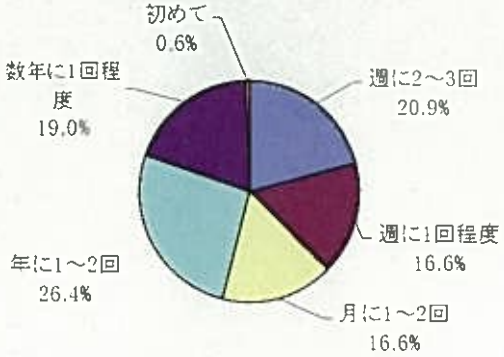
どこから来ました



同伴者とそのご関係

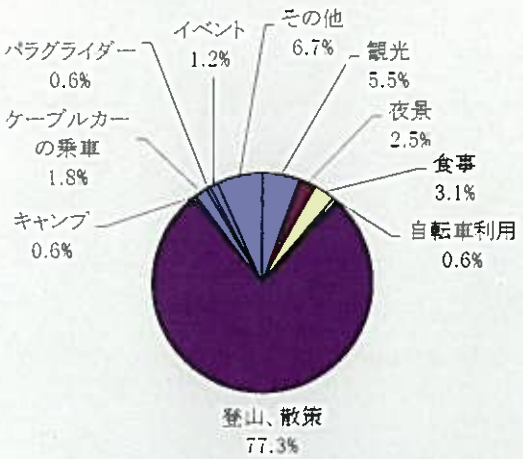


どのくらい利用しますか

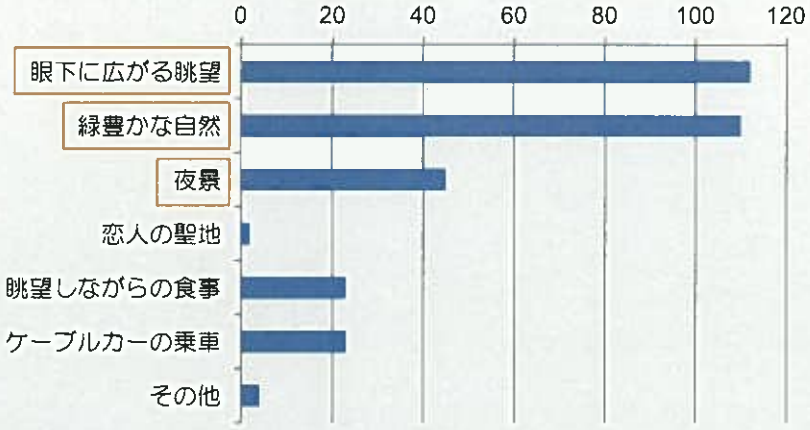


○　ビジターセンターへの来訪目的の 77%が登山となっており、近年の登山、健康ブームが追い風となっています。また皿倉山の魅力は「眺望」が最も多く、「緑豊かな自然」、「夜景」の順となっており、ケーブルカー山麓駅の結果と同じになっています。

利用目的はなんですか

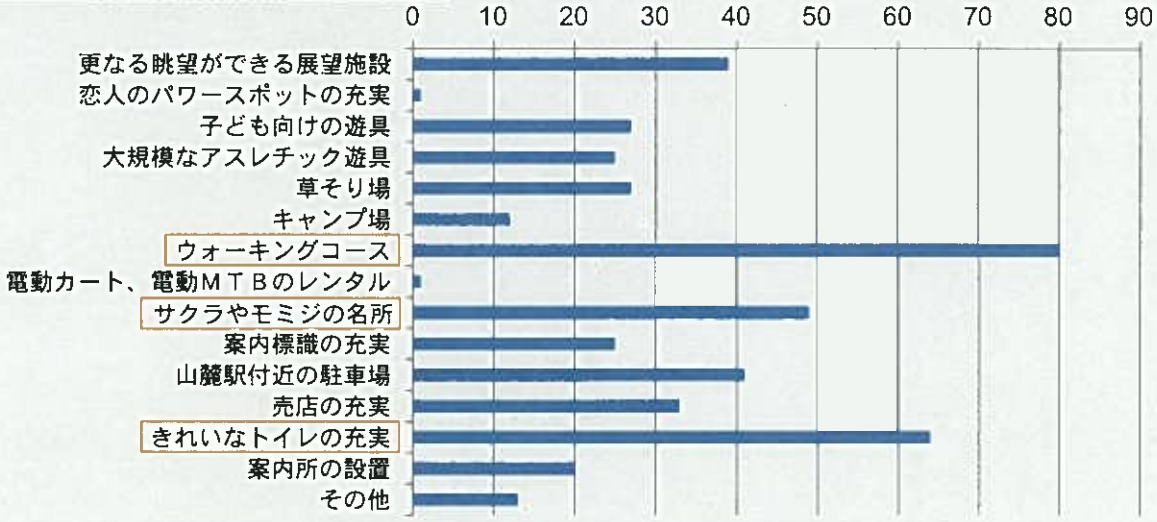


皿倉山の魅力はなんですか



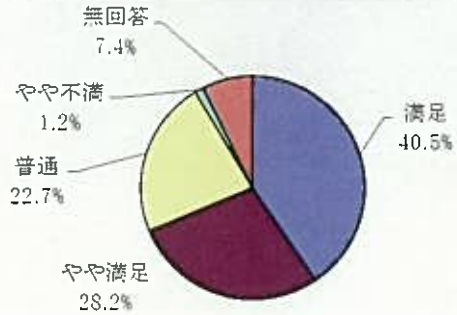
○　あったらいいなと思う施設では、「ウォーキングコース」、「モミジやサクラの名所」など、家族連れのレクリエーションや健康志向の向けの施設の充実、また「きれいなトイレの充実」も多く、老朽化したトイレの再整備や管理の充実が望まれています。
　また、ケーブルカー山麓駅設置分も「ウォーキングコース」や「トイレの充実」であり、同等の結果が得られました。

あったらいいなと思う施設は何ですか



○　満足度では、来館者の約 70%が満足しており、近場で登山や適度な運動をするのに非常に適した山であることが窺えます。今後、「ウォーキングコース」や「トイレの充実」の整備をすることで、更なる満足度、集客力アップにつながります。

皿倉山には満足していますか



その他の要望意見

- 森林植物園及び周回路（周遊路）の整備。
- 案内標識をもっと詳しくしてほしい。
- だんだん広場付近に各種の花々がほしい。
- 貴重な自然をこの状態のまま後世に残していきたい。
- 皿倉山のことをもっとＰＲしてほしい。

6．皿倉山をとりまく課題

皿倉山をとりまく課題は以下のとおりです。

皿倉山の絶景の更なる活用とシンボル性の創設

皿倉山から望む大パノラマは、日本を支えてきた産業都市を眼下に見渡せる、わが国有数の絶景です。その夜景は、新日本三大夜景に選ばれ、「100億ドルの夜景」と呼ばれています。

市街地に近接した大自然と間近に迫る皿倉山は、絶景を活かした遊び場など多世代に楽しむことができます。また多くの学校の校歌に登場するなどしており、郷土を思う際の市民のシンボルとなっています。

その一方で、来訪する頻度が数年に一度が最も多いなど、新鮮さにかけており、魅力が停滞している状況となっています。さらに、絶景を違った見せ方で楽しむことができる施設の充実など、新たな楽しみ方が求められています。

花などの自然の美しさや心地よい空間の充実

皿倉山の来訪者の主な目的としては眺望になります。利用する施設として、スイス製のケーブルカーとスロープカー、山頂展望台となっており、「他に見る所がない」という声も多くあります。山頂付近には帆柱森林植物園や雄大な自然樹林、キャンプ場等があるのですが、案内やＰＲ不足のために利用者は少ないのが現状です。この様に、トータルイメージの形成不足や施設同士の結びつきが弱くなっています。

花木などの自然の美しさとふれあえる心地よい癒しの空間や、健康づくりの場としての充実など、街中に隣接した皿倉山ならではの自然を活かした見直しが必要となります。

魅力ある施設群の回遊性の向上

近年の登山ブームによる運動や健康増進、中高年のファミリー層がアクティビティを高める事を目的とした自然体験教室など、今後の利用者ニーズに合った魅力づくりと施設の連携を高めた回遊性の向上が必要となります。

皿倉山がもつ資源やニーズを捉えた整備、魅力のある施設群の連携や回遊性を高めた散策ルートの設定など、ハード面とソフト面の強化による集客力の向上が求められます。

アクセスの改善や駐車場の充実

皿倉山はJR八幡駅の正面にあり、駅から徒歩でくる来訪者も多く、途中に誘導標識が少ないため「分かりづらい」という声があります。登山道の入り口は多数に及ぶため、分かりやすい道案内が求められます。また、大型連休や紅葉時のシーズンには大勢の来訪者となり駐車場が満車になります。そのため駐車場にとめることができずに引き返す来訪者もいるため、駐車台数の拡大も求められています。

Ⅲ. テーマとコンセプト

1．テーマ

皿倉山は、眼下に見渡せる絶景と夜景、ケーブルカー、大自然、帆柱森林植物園、キャンプ場など魅力的な施設があり、大きなポテンシャルがあります。

皿倉山とその周辺において、新たな魅力づくりと一体的な観光地としての回遊性や情報発信力を高め、市民の健康づくりや癒しの場、ファミリーや子育て世代が楽しむアクティビティ、市外客の景勝エリアとして魅力の向上を図ることを目的とします。

事業の目的に基づき、皿倉山を魅力のある場所にするため、テーマを以下のように設定します。

テーマ

皿倉山の絶景と樹々に癒されるシンボルとなる空間づくり

2. コンセプト

＜テーマ＞　　＜コンセプト＞

皿倉山の絶景と樹々に癒されるシンボルとなる空間づくり

「感動空間」の形成

皿倉山の絶景を活かした「感動空間」の形成

来訪者の主な目的でもある皿倉山の眺望は、響灘から関門海峡までの視野角 270 度を見渡せることができ、眼下には旧官営八幡製鐵所の世界文化遺産のあるエリアも一望することができる他にはない絶景となっています。

この絶景を活かした施設や遊び場を作ることで、「感動空間の形成」をします。

展望デッキイメージ

「やすらぎ空間」の形成

花や紅葉、古代の樹々を楽しみ、癒される「やすらぎ空間」の形成

皿倉山は市街地から近い場所に緑豊かな自然を感じることができる山となっており、市内で最も標高が高いことから季節が最初に訪れることになります。

色とりどりの花や新緑、紅葉により四季を感じ、400年前から存在する樹木から歴史を感じ、自然により癒される、「やすらぎ空間」を形成します。

権現山 皇后杉群

「ワクワク空間」の形成

自然の中で新たな発見や冒険心を誘う「ワクワク空間」の形成

皿倉山の大自然とふれあうことで新たな発見と探究心を養い、アスレチックやトレッキングの運動で冒険心が芽生え、体験学習やイベント等の催しをすることで「ワクワク空間」の形成をします。

体験学習やイベントのイメージ

アクセス対策

広域からの集客対策の向上を図る「駐車能力」の向上

大型連休や紅葉のシーズンには多くの自家用車が集中するため、駐車能力の向上を図ります

立体駐車場のイメージ

アクセスや回遊性の向上を図る「案内サイン」の充実

皿倉山までのアクセス向上につながる案内標識や、外国人観光客に対応する多言語でのサインの充実をします。

カラー舗装のイメージ